

急速に失われている。何だか経済的な発展と引き換えに、自然の海岸を失っているような気がしたのである。

## 5 日本人の町、リトルトーキョー

西海岸の見学ポイントとして期待していたのが全米日系人博物館の見学である。いわゆるリトルトーキョーの日系移民たちの努力で建設された見所である。真新しい建物の2階部分に展示がある。入ってすぐに目に付く古びた板ばりのバラックこそ、この博物館の象徴物である。太平洋戦争のさなか、西海岸に住む日系人を対象にした強制収容所の一部である。移民2世や3世たちにとってはどうして自分たちが収容されなければならないのかが理解できなかったであろう。それまで努力して財産を築いてきたすべてを奪われた悔しさに移民という人間の移動形態の特性をも感じた。案内してくれた女性の学芸員の方の熱心な説明を聞いていると、それほど多くの来館者はないのではないかと感じられた。アメリカ人の来館者はたぶんわずかであろう。しかし、この博物館が訴える過去は、日本の近代史そのものでもある。一層の関心を持ち社会科教材化を試みたいものである。

ところでこの博物館で気付いたことであるが、日系2世が太平洋戦争中、アメリカ軍に入隊し、主にヨーロッパ戦線で活躍したことは有名であるが、そのうちの一人が暗号解読者としてミネソタのフォートスネイリング砦で勤務していたと解説展示で見つけた。同じ展示をその砦で見学したばかりだったので、意外とアメリカは狭いものだと感じたのである。フォートスネイリングの博物館入り口に廃墟として立っていた旧陸軍の兵舎こそ、そういった日米の戦争といったエポックにまつわる近代化遺産なのではないだろうか。

博物館はリトルトーキョーに隣接している。散策してみればまるでどこかの日本の商店街に迷い込んだかのような気もしてくる。寿司屋、洋服店、クリーニング、日本映画館、日本風スーパーなど一帯が日本の町になっている。とても東京と呼べるような規模ではないが、ここまで100年かかって外地に築いてきた日系人の生活の軌跡を感じることができた。

## 6 おわりに

今回の研修旅行はわたしにとってアメリカ大陸4度目の渡航であった。その意味で刺激的な新発見や初体験は少なかったものの、個人旅行ではなかなか訪問できにくい個所への旅もでき、しかも優れた通訳をこなしてくださった杉浦教授やアメリカ通の奥住教授の適切な解説、世界史の専門家である深草教授、さらに各自ユニークなキャラクターを持ち、実に楽しそうに参加された現場教師の皆さんのおかげで充実した日々が送れた。天気にも恵まれ、事故もなかった。アメリカが満喫できた2週間である。

アメリカは物価も安く、ゆったりと過ごせる国である。ある程度の収入が保証された仕事を得られれば世界一暮らしやすい国といってもいいかもしれない。国内が広いので旅行も楽しいだろう。これから日本とアメリカの関係も一層緊密になっていくことだろう。100年以上前に日本から使節団や留学生たちがアメリカに渡った頃はおそらく奇妙で好奇心を触発する国として日本が彼らの目に映ったかもしれない。かなり日米相互理解はすすんでいるとは思いますが、私たち日本人がアメリカを知っている割合に比べ、きっと彼らが日本のことを知っている割合は小さなものに違いない。相互理解とはいってもそこにはアンバランスな関係が横たわっている。

社会科教師や英語教師は今後、そういった相互理解を促進する役目がある。積極的にアメリカ人の友人を作り、日本に招待し、家庭ごとで交流してほしい。拙宅でも今年の春、3週間アメリカ人の友人を招いて滞在させたが、日常を共にすれば理解が一層すすむのが実感できた。児童生徒に対しても臆せずアメリカ人と付き合う勇気と度量を磨くように勧めてほしい。そういった積極性の育成は教師に課せられた使命の一つであろう。